

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 9日から10日は、低気圧が発達しながら千島近海から千島の東に進む。前線が東シナ海から日本の南にのびる。
- 11日から13日は、高気圧が日本の東を東に移動し、前線が東シナ海から日本の南に停滞する。

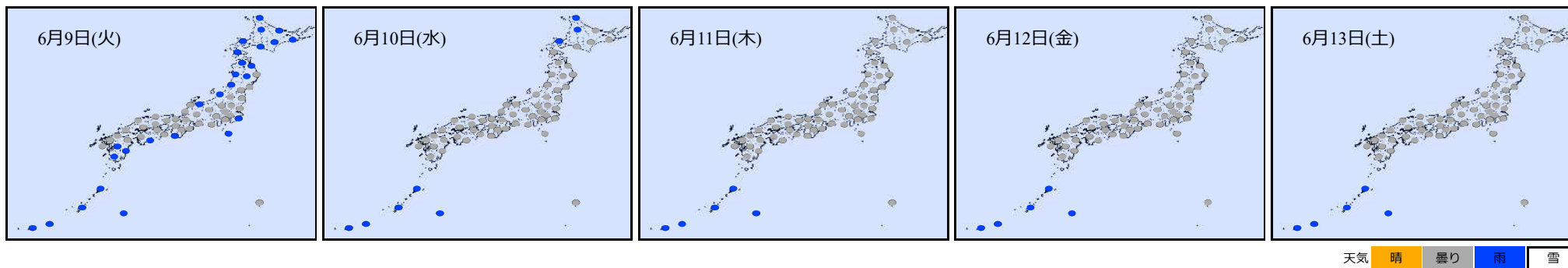
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 9日は、北日本では低気圧の影響で荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては、警報級の大雨や大荒れとなるおそれがある。
- 9日から10日頃は、西日本と沖縄・奄美では前線の活動の程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

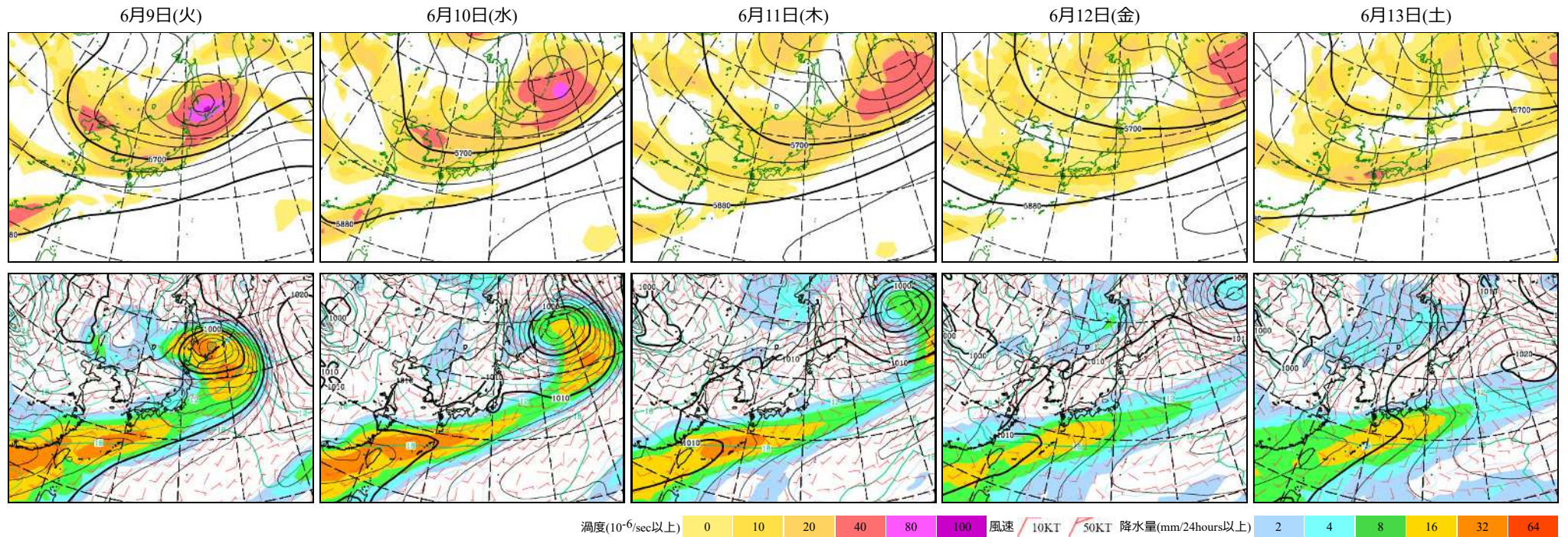
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

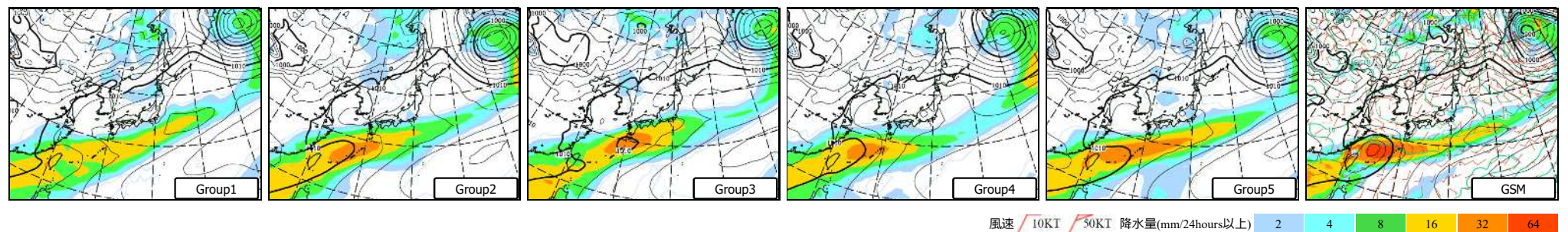


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本と西日本は、雲が広がりやすく、9日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、上空のトラフ、リッジが明瞭となった。期末に沿海州に進むトラフが早くなった。地上も期末の本州南岸の前線や低気圧が明瞭となった。GSMは、期末のトラフの進みはENSより早く、地上も本州南岸付近の前線や低気圧が強く、早くなった。
- 10日頃まではモデル間での予想は概ね揃っているが、その後は日本付近へ進むトラフ・リッジの予想にバラつきがある。地上も、前線や低気圧の位置、発生有無に違いが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基本に考える。